



令和8年6月22日発行

学校だより

第6号

江戸川区立松江第三中学校

〈 教 育 目 標 〉

- 1 素直で明るい、心豊かな生徒を育てる
- 2 自ら進んで、よく学びよく働く生徒を育てる
- 3 責任を重んじ、正義と規律を尊ぶ生徒を育てる

自分の名前・・・

校長 小澤 託

みなさんは、学級での様々な活動や部活動で友達を名字で呼びますか？

それとも、下の名前で呼びますか？

一般的には、社会に出るとその方の名字で呼ぶことが多くなると言われております。親しい場合や小さい時からのつながり、呼びやすさなどで下の名前を呼ぶこともありますね。私は、下の名前が2文字なので、先輩方から“たく”、後輩からはからかいも含めて“たくさん”と呼ばれていた気がします。

名前は、ご家族の方が願いや思いを込めて、考えて考えて命名しているのが多いものです。しかし、名字は最初から決まってしまうかのように、サラッとつかっている気がします。

その名字ですが、国内には、10万種類以上の名字があると言われています。

全国で最も多い名字は、何という名字だと思いますか？

調査結果によると・・・“佐藤”さんが最も多い名字で 全体の1.53%を占め、日本の総人口から算出すると推定で194万人の方が“佐藤”さんということになるそうです。

2位は“鈴木”さん、3位は“高橋”さん、4位は“田中”さん、5位は“渡辺”さん。

都道府県ごとにも特徴があって、“佐藤”さんは、北海道や東北地方の大半でトップ。“鈴木”さんは、静岡、茨城で1位を占め、関東や中部地方で多く、鳥取や佐賀でトップだった“田中”さんは近畿や九州地方で多かったという調査結果とのこと。

一昔前、東北地方のある県で開催された野球の大会で、スコアボードに表示された選手の名前が全て“佐藤”だった、とニュースや新聞で報道されたことがあった気がします…。ちなみにその名字にも、元をたどっていけば、ちゃんと意味があったり、何かしらの由来があったりするものです。ぜひ、それぞれの名字の由来など調べてみてはいかがでしょうか？

さて、この前は考査もありましたが、5月末に大きな学校行事である体育祭が終わり、通常の学校生活がここまで続いてきました。そんな通常の学校生活になると、様々なトラブルが増えてくるのが学校です。

嫌なことを言われた、意地悪なことをされた、変なあだ名をつけられた等、様々です。

元々は他人同士が集まって生活するのですから、トラブルはあって当然ですし、そのトラブルを解決しながら、社会で生きていくための力をつけていくのが学校です。しかし、そのトラブルの発端が、人を傷つけるような言葉や行為であってほしくはないです。私たちは嬉しい・悲しい・楽しい・悔しいなどの心や感情をもつ人間です。心の傷はなかなか治らないし、立ち直るにも時間がかかるものです。些細な言葉やちょっとしたふざけでも、それが原因で人を傷つけることがあることをもう一度確認してほしいです。

一人ひとり、願いや思いを込められた名前や代々受け継がれてきた名字をもち、大事に育てられてきた人たちが集まって生活していること。一人ひとりが意思や考えをもち、感じる心をもって生活していること。一人ひとりが松江三中的一員であり、みんなで学校を作っていること。

忘れないでください。

【生徒の活躍】次号でさらに報告します！！

★区夏季総体（19日現在）

＜サッカー部＞

予選リーグ 3勝1敗（○対松江六・葛西二、○対清新二・南葛西、○対松江五、●対小松川二・松江二）

決勝トーナメント ●対篠崎 5位～8位順位戦

ブロック大会進出決定

＜バレーボール部＞

女子：予選リーグ 2勝1敗（●対瑞江二 ○対清新一 ○対南葛二）

2位トーナメント 1勝1敗（●対上一色 ○対小岩三） ブロック大会進出決定

＜テニス部＞

個人戦 ベスト16進出（

） 男子：団体都大会出場決定

＜バスケットボール部＞

男子：松江五中に敗退（1回戦）

女子：小岩三中に敗退（1回戦）

大会会場での運営手伝いに一生懸命準備、片づけをしたり、会場（大体育館ギャラリーから小体育館まで）の忘れ物等を確認したり、担当校に荷物やその忘れ物を運ぶ手伝いをしてくれたバスケ部の皆さん、ありがとう！！感謝の連絡をもらいました！！勝ち負け以外で大切なことを学んでいると思います。そういうチームに先頭に立って作ってくれた3年生、良いモノを残してくれたね！！

★春季区民大会

＜剣道部＞

男子：中学3年の部 第3位

*陸上部は次号にてお知らせします

★保健関連

＜歯科優良生徒＞

3年：（1組）

（2組）

（3組）

（4組）

＜江戸川区よい歯のポスターコンクール＞

3年：（1組）

（2組）

（3組）

2年：（2組）

（3組）

～ フリースと言えば…あの企業、の“新聞広告”のすごさ ～

今やグローバルな日本を代表するアパレル企業と言えば誰でも分かりますよね。UNIQLO××ですね。都内にもたくさんのお店をどこかしこに出店しており、白をバックにした赤文字のマークの看板や有名な俳優さんを起用したCMは、一日に見ないことはないくらいです。あの企業の広告を見たときに、思わず“流石だな～”と思ってしまいました。

5月のある日、あと何日かで母の日を迎えるという時、新聞を開くと…
左の紙面にパンをほおばるやんちゃそうな男の子の写真
右の紙面にエレベーターに大きな荷物を肩から下げた部活帰りと思われる女の子の写真
それぞれの写真の左下に、お母さんへのメッセージ
（これがまた涙が流れてきそうな心をつく言葉が…）
その右下にちょっと小さめの文字で 「おかあさんにありがとうを贈ろう」

おそらく、この広告を見て、お店に走った人はいたはず！ そして、時は過ぎ…
父の日が近づいた時にもあるのかな～、などと思って過ごしていましたが、ありました！！
構図としては、同じ作りですが…
左も右も、高校生と思われる男の子と女の子、そして、そう来たか、と思うメッセージ…。

視覚と心に訴えるメッセージで消費者の興味関心をつかむ。
自分だったらどんな言葉を並べ、どんな写真を選ぶだろう、どんな構図にするだろう、と考えることも頭の体操で、勉強になるかもしれません。特にこれから生きる中学生の皆さんには、発想力や企画力、プレゼン力も必要な世の中になってきますので！！